

## “ふじのくに”士民協働事業仕分け結果（事業別個表）

事業番号	11	事業名	「大地に学ぶ」農業体験推進事業費
------	----	-----	------------------

### 1 基本情報

実施日／班名	10月13日 第3班	時間	10:13～11:16
担当課名	教育委員会学校教育課	事業費	8,840千円

### 2 判定結果

結果	県民評価者 判定内訳(人)			
県の関与必要 (見直し・縮小)	判定区分	県の関与不要	1	
		県の関与必要	見直し・縮小	22
			現行・拡充	11
	判定理由	結果と同一区分を判定した県民評価者の主な判定理由（人、複数回答有）		
		事業効果の把握・検証方法や目標の設定方法を見直すべき		13
		県の役割(市町、関係団体、県民等との役割分担)を見直すべき		12
効果がない、低い、不明確なため、事業内容を見直すべき		7		
他の事業との関係を整理すべき		5		
サービスの水準や対象者を見直すべき		4		

### 3 具体的な見直し・改善策又はその他意見

<p><b>【県の関与不要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業高校がある市町が実施した方が身近になる。高校生のキャリア教育の中で、相手を思いやる心、命の大切さを思う心を、小中学生に学んでもらいたい。高校生ならもっと上のキャリア教育を目指すべきである。</li> </ul> <p><b>【県の関与必要（見直し・縮小）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的がキャリア教育、道徳教育、環境教育となっているが、どの目的が主になっているのか理解できなかった。幼保中小が体験することはとてもよいと思うが、子ども達は遊びと受け止める気持ちが大きいのでは。期待される効果が、社会奉仕、相手を思いやる心を得るのは、少しずれていると思う。</li> <li>・NPOを通しての実践の方が良いと思う。</li> <li>・高校生を軸に考えるのなら、水田・畑等を県が用意することは出来ないか。</li> <li>・議論の枠を大きくする前に、現状(農業高校の人気、価値観、卒業後の進路)をはっきり説明してほしい。</li> <li>・私たちの地域では、幼稚園での秋の収穫のさつまいも作り程度の農業体験ですのであまりよく分からないが、農業は安易に体験できるものではないように思う。収穫まで1年間かかるものばかりなので、たやすくできないと思う。</li> <li>・休耕田などを、有意義に活用することに努めてもらいたい。</li> <li>・民間委託について、農家の協力関与(例えば、田んぼの管理指導をしてもらい、実際の管理は高校で行う)を検討しては。</li> </ul>
--

- ・高校を中心に活動を進めているが、農業に対する理解・体験を深める為、協力校が小中学校のみでなく、幼い子ども達(幼稚園・保育園児)まで対象を広げることが必要。この事が今回議論されないのは残念。
- ・成果指標に、ボランティアと環境以外にも、ものづくりへの理解の項目を入れてもらいたい。
- ・事業シートに実績状況はあるが、計画(モデル校数、参加人数)はあるのか。
- ・耕作地の管理を誰がどのように行っているのかが分かりにくい。
- ・経費の内容が分かりにくい。金額(単価)検証はどうなっているのか。
- ・目的の核となる部分がよくわからない。
- ・目的が3つくらい書いてあったが、この事業を通して最も実現したい目標を絞り、やり方を見直すべきではないか。
- ・農業従事者の減少に対応するため、特に高校生に農業体験をさせることに重点を置いた方が良い。農業に対する理解を深め、将来農業に携わる人を増やすためだとすると、農業高校だけでなく、他の高校にも更に広げたほうが良い。そのために遊休農地等を活用するのはとても良いことだと思う。(主にそのためにお金を使うべき)
- ・農業に就く人が少なくなってきたと思うので、キャリア教育に力を入れて欲しい。
- ・小中学校の時から興味を持てるようにして欲しい。
- ・目的の一つであるキャリア教育についての成果指標を調査・数字化し、目的と成果のリンクを図って欲しい。
- ・県の事業ということで県立学校が主体になると思うが、目的を読む限り、読み取れない。
- ・県教委と市町教委が連携をとり、今ある小中学校の農業体験活動を活用していく方法がある。
- ・小中学校に農業体験をさせることは必要である。農業への関心、農業の大切さを感じさせたい。
- ・本目的が高校生のキャリア育成であるならば、実施結果は参加校の数や「困っている人がいたら助ける」といった陳腐なアンケート結果ではない。
- ・協力校が主体で畑等を管理しているのであれば、きちんと実態に即した経費配分をすべき。
- ・農業に関わることは大変いいことだと思うので、もう少し小中学生にも関わりが持てたらいいと思う。
- ・山間部は休耕地が多く、高齢化して耕作放棄している田畑が多く見られる。県民としてはそういうところで地域のお年寄りとの関わりで活性化する期待もある。ただ山間部に行くと移動の費用もかかる。
- ・食糧自給率の低下の中で、小中高校で農業を推進するのは分かるが、元々の農業高校に決めるのではなく、普通高校でも農業分野への取組が必要ではないか。
- ・今後統合が決まっている学校が入っているので(天竜林業・二俣・春野)(引佐・気賀)小中の農業体験をより厚くすることと林業も入れるべきではないか。
- ・農業系高校を守るのは分かるが、協力校に市立、町立が多いため、市町と連携する必要がある。
- ・NPO 団体との連携など今後活用してはどうか。
- ・遊休農地などを近郊の農業高校の管理下に置くことを進められないか。
- ・農業高は地元の遊休農地を数年かけて(田植え等は1年くらいで)もっと農作業をすればよいと思う。小中高は JA 等ですればよい。(バス等はいらない)
- ・主体が高校生であるとの説明であったが、目的を読む限りでは義務教育課程の小中学生も含まれている。高校生よりも地域に深いかわりを持つ小中学生を主体とすべきだと思う。動植物を育て、それを活用したり食べたりする学習は、児童生徒の情操教育には大きな効果がある。総合的な学習等を使い、遊休地と地域の農家の方々、JA 等の力を借りての学習を主体とし、そこに高校生が関わる活動が好ましい。小中学生を主体にすると各市町が深くかわることになるのなら、県が各市町と連携したり支援したりするなどの体制づくりを検討していただきたい。

- ・大地に学ぶという目的を読むと、小中学校、高等学校、特別支援学校の児童・生徒が主語になっているので、高校が主体というのは見直しをしてほしい。その後の「共に」という言葉は、高校を主体としたときに他の小中学校を巻き込む意味があると思うが、あえて「共に」は不要で、大地を学ぶ授業として、小中学生を含めて多くの児童、生徒に事業を実施してほしい。
- ・農業を通して得られる経験、知恵、感動などの重要性はよく分かるが、なぜこの事業を推進していくのか、目的が明確ではない。
- ・他にも体験活動はできる(相手を思いやる⇒福祉など)。
- ・この事業を行っていく明確な目的が見えてこない。なぜ農業なのか。農業の重要性は分かるが、農業高校を卒業した方が農業に就く割合は1割程度。他の方は関連する仕事や全く関連のない仕事に就く人も多い。目的にある相手を思いやる心、生命の大切さを思う心を育む、社会奉仕の精神を養う、というのは、農業以外の奉仕活動からも養えるのではないか。例えば介護、福祉を通しての相手を思いやる心、仏教、お寺での学習を通して人が生きている意味、心を育むこともできる。なぜ農業に限定しているのかが、数字の上でも内容としても明確でないので、期間を決めて見直してほしい。
- ・農業でしかも高校が主体。枠が限定されすぎではないか。
- ・始まったばかりなので継続してほしい。子どもたちに農業の経験をさせることは良いことと思う。
- ・具体的に目標がどこだか分らなかった。農業も大事だが達成位置が見えなかった。
- ・主目的と副目的の優先順位を明確に、効果は別に把握すべき。

#### 【県の関与必要（現行・拡充）】

- ・高校主体で小中学校との連携をしっかりと確立してほしい。
- ・近所の小中学校の参加が少ないため、更に増える学校が出てほしい。
- ・モデル校全校合同で実りの秋を県民と一緒に味わえる機会を設定(目に見える成果の確認)したら良い。
- ・今から社会に出ようとしている高校生(次世代の若者)を中心とした事業はもっと増やしていくべきだと思う。
- ・始めて2年目とのことだが、昨年において参加した生徒が職業として農業関係に就職したのかを表示してほしい。
- ・私たちが幼稚園の畑での作業、公民館活動の一環で小学生を対象に活動しているが、園児小学生は苗の植え付け、種まき、収穫時の喜びは大きなものがあるので今後続けて欲しい。農作業を通して子ども達の交流を深める事が良いと思う。
- ・子ども達の農業体験は必要。日本の農業を守るためにも。高校も農業高校だけでなく、普通高校等も体験ができたらと思う。近くの茶畑やみかん畑など年に1回でも参加できたらよい。
- ・去年から始めたばかりのため、もう少し長い目で見ても良いのではないかと。JA、NPO が行っている事業に対してはお互いに協力し、よりよい活動をしていただきたい。
- ・農業高校以外の高校への体験学習について広がり期待したい。
- ・協力校、特に小中学校との異世代交流は人間育成に役立つ内容がたくさんあると思うので、年間の学習内容に組み込んだ授業の一環とした計画的な教育として充実させてほしい。
- ・目的を整理すれば、成果指標や評価についてもう少し詳細に書くことができそう。
- ・事業についてはもう少し継続して成果を見たい(結論づけるのはまだ早い)。
- ・単年度で行わなくても良いのでは。
- ・整備した農地の活用が滞るからという理由で事業を続けたいというのはおかしい。
- ・県教委単独ではなく、県、市町村、他の関係機関との連携で行うべき。
- ・予算を使って子どもの頃から農業好きになるよう教育すべき。